

## レファレンス

### コーナー

## アジア通貨危機とIMF

東川 繁

一九九七年七月二日のタイ・バーツ管理フロート制移行に端を発した通貨危機はまたたくまに近隣諸国に波及し、タイ、インドネシア、韓国の三国がIMF（国際通貨基金）に支援を要請するに至った。しかし、IMFの提示した経済調整プログラムは有効に機能することはなく、通貨の暴落は止まらなかった。IMFのコンディショナリティ（融資条件）は当該国の実情を無視して構造改革を強制するものと映り、周辺諸国をも巻き込んだ政治・社会不安を招来した。韓国ではIMFが「私は解雇された」を表す英文の頭字語としてデモのプラカードに使われ、国民の困惑を世界に印象つけた。一方、その後も次々と打ち出されたIMFプログラムはついに効果を発揮せず、IMFに対する批判はより広範なものになっていった。

翌年になると、通貨危機の発生要

因の分析とあわせて、IMFプログラムに対する批判的検証が発表されはじめた。金堅敏「アジア通貨危機におけるIMF等の緊急支援とその評価」（富士通総研経済研究所 一九九八年）は、一九九八年四月までの状況を簡潔にまとめている。伊藤隆敏「アジア通貨危機とIMF」（『経済研究』第五〇巻第一号 一九九九年一月）は雑誌論文であるが分析は詳細である。一九九九年にはよりまとまった形の成果が書籍として出版され始めた。白井早由里「検証IMF経済政策——東アジア危機を超えて」（『東洋経済新報社 一九九九年）は、IMFにエコノミストとして五年間勤務した経験を持つ著者による、IMFプログラムおよびIMF体制の詳細な検証である。平田潤監修「二世紀型金融危機とIMF」（『東洋経済新報社 一九九九年）は、アジア通貨危機と従来の通貨危機との相違を示し、IMFプログラムを批判的に検証する。当時提唱された「アジア通貨基金構想」およびその代替案である「新宮澤構想」にも言及している。執筆陣は第一勧銀総合研究所国際調査部のスタッフ。荒巻健二「アジア通貨危機とIMF——グローバル化の光と影」（『日本経済評論社 一九九九年）は巻末に斉藤国雄IMFアジア太平洋地域事務所長の講演を収録しており、IMF側の見解の一端を知ることができる。L・マッキラン/P・モントゴメリー編「IMF改廃論争

の論点」（『東洋経済新報社 二〇〇〇年）はスタンフォード大学フーバー研究所研究員が編纂し、野村証券と野村総合研究所の研究員が翻訳したものである。IMFに対して批判的な論文が多いが、擁護的なものもある。J・サックス、P・クルーグマン、S・フィッシャーなど著名人の見解を知ることができる。国宗浩三編「アジア通貨危機——その原因と対応の問題点」（『アジア経済研究所 二〇〇〇年）には「債務危機管理とIMFの役割」の章がある。危機の原因は各国の構造問題よりも国際金融市場の問題というのが同書の基本認識である。国宗浩三「アジア通貨危機と金融危機から学ぶ」（『アジア経済研究所 二〇〇一年）は前半部をアジア通貨危機の発生要因とIMFの対応に、後半部を金融危機の処理策すなわち不良債権処理、金融機関再建等にあてている。事実経過の羅列を避け、著者独自の切り口を前面に出しているのが特色である。二村英夫「国際金融問題——アフリカ、アジア、ヨーロッパの抱える問題」（『深水社 二〇〇一年）では第二章が「アジア通貨危機と国際通貨基金の経済調整策」としてこの問題を取り扱う。著者は三年間IMFアフリカ局エコノミストとして勤務した経験を持ち、第一章はアフリカに対するIMFの政策の検証にあてられている。アジア通貨危機との関連でも有益と思われる。J・ステイグリッツ「世界を不幸にしたグローバル

リズムの正体」（徳間書店 二〇〇二年）は徹底的なIMF批判である。第四章「東アジアの危機——IMFの政策が世界を破滅の縁に追い込んだ」では、IMFがこの地域でいかに基本的な誤りを犯したかが具体的に指摘されている。

ところで、国際金融論の概説書はなんらかの形でIMFの役割に触れていることが多いが、このテーマにおいてはIMFに関するより詳しい資料が欲しいところである。これについては、井川紀道編「IMFハンドブック——国際通貨基金の組織と機能」（年金研究所 一九九二年）が便利である。また、大野健一・大野泉「IMFと世界銀行——内側からみた開発金融機関」（日本評論社 一九九三年）は読み物としても面白い。著者はそれぞれIMFと世界銀行での勤務経験を持ち、政策決定過程の実際についても言及している。なお、アジア通貨危機以前の主要な債務危機の発生状況およびIMFを含む諸機関の対応については、田中五郎「『発展途上国の債務危機——経緯と教訓』（日本評論社 一九九八年）がある。上川孝夫・新岡智・増田正人編「通貨危機の政治経済学——二世紀システムの展望」（日本経済評論社 二〇〇〇年）はアジア通貨危機を含む一九九〇年代の通貨危機の構図と、それを取り巻く国際政治経済システムを概観している。（ひがしかわ しげる／図書館資料企画課長）